

(仮称) 周南市文化芸術活動推進センター
運営準備業務
【報告 6月～7月】

周南市文化振興財団

1. 吹奏楽の取り組み報告

令和5年6月23日（金）

「第2回 周南市吹奏楽関係者情報交換会」を実施

【出席者】

中学校4校、地元楽団2団体、周南地区吹奏楽連盟、周南市中学校文化連盟、山口県、周南市（学校教育課、文化スポーツ化）、文化振興財団

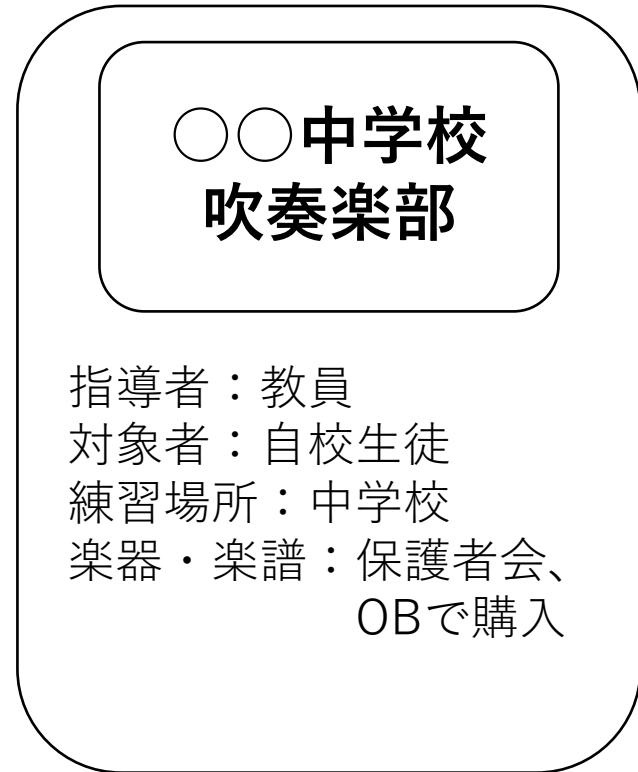
【協議内容】

第1回の意見交換会(5/24)で出た課題を踏まえて、地域団体のひとつのスタイル（案）をたたき台として協議を行った。

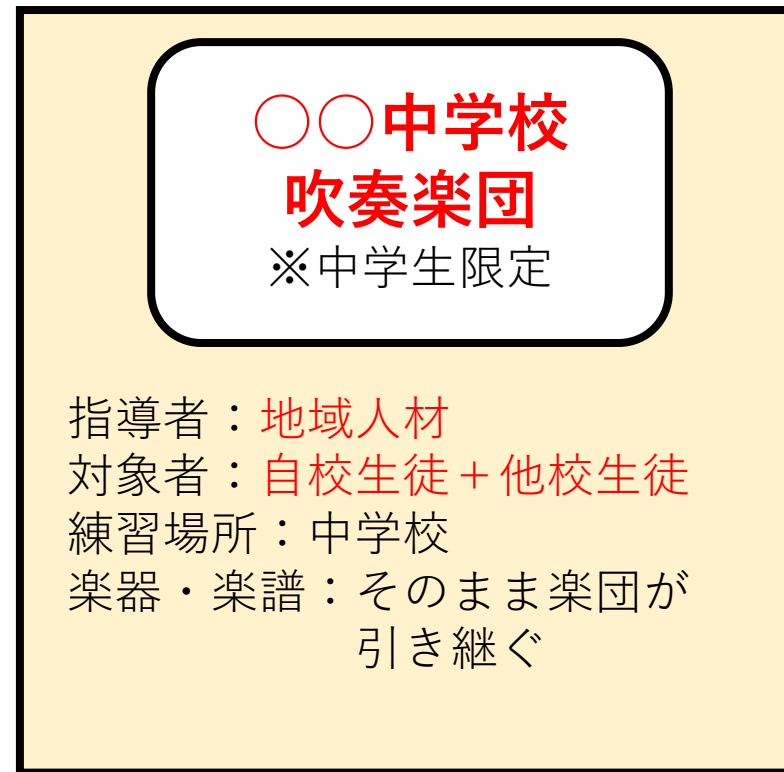
◆地域団体のスタイル(案)

吹奏楽部がある学校は、学校単位で中学生限定の吹奏楽団をつくり移行する。

現在の部活動



スタイル(案)



※
指導者は地域
や人材バンク
から

※
他校生徒も
受入対象

◆生徒の選択肢

- ①コンクール上位を目指す学校の楽団を選択
※経験者
- ②気楽に演奏を楽しめる学校の楽団を選択
※初心者、経験者
- ③いろいろな世代と演奏ができる地域楽団を選択
※経験者
- ④吹奏楽部のない学校では、楽団による出前練習を検討
※周南の吹奏楽人口を維持するため、生徒が楽器と出会う機会をつくる

◆各団体の意見

【連盟】

スタイル（案）について、楽器、楽譜、練習場所の課題が解決できる
→受け皿として妥当な体制ではないか

【周南市】

実施主体が課題。現在の吹奏楽部の運営を、父兄会やOB会、地域人材、企業、地元楽団等が引き継ぐイメージになるのか
→スタイル（案）については、まだまだ検討が必要

【中学校】

吹奏楽部のある9校すべてで楽団を立ち上げるのはむずかしい
→学校ごとに状況がちがうため個別の調査や対応が必要

【地元楽団】

周南の吹奏楽発展のため、地元楽団等による地域貢献活動の可能性はあるか
→1楽団だけではむずかしいため、複数団体の協力が必要

吹奏楽の今後の取り組み

- ①学校ごとの個別調査や対応方法などを検討する
- ②今回のスタイル（案）と実施主体についての課題をまとめ、関係機関と協議をすすめていく
- ③吹奏楽の大会の時期に入るため、落ち着いた時期に次回の情報交換会を開催する

2. 周南文化協会の加盟者へのアプローチ

令和5年7月30日（日）

「周南市中学校部活動の地域移行についての説明会」を実施

※今回が地域団体を対象にした初めての説明会となる

◆周南文化協会の加盟団体より27名が参加（166団体中）

【対応】

文化振興財団、文化協会、周南市（学校教育課、文化スポーツ課）

学校教育課より部活動の現状や生徒のニーズ、周南市の取り組みやビジョンについての説明をしていただき、意見交換や個別相談なども行った。また、活動団体（個人）の実態調査として、活動状況についてのアンケートも実施した。

参加者の反応

部活動改革について初めての説明会ということで、特に関心を持たれている方が参加されているという印象だった。

【参加者のご意見】

- ・今の生徒はニーズも多様で実際にどうやって応えていくのか
- ・若い方に関心を持ってもらうためにはどうすれば良いか
- ・個人教室で生徒を教えているが、市民センターも講座等をもっとアピールして受け入れを促して欲しい
- ・中学生になると部活動を理由にやめる子が多かったが、体制が変われば嬉しい

現状と課題

文化芸術活動をしている166団体（個人）に対して今回の参加者は27名であり、多数の団体はまだまだ関心が低いのが現状。また、高齢化で活動自体がむずかしくなっている団体も少なくない。

現在、活動団体（個人）の実態調査も行っているが、すぐに受け入れが可能な団体は限られているため、具体的な仕組みや支援策などを早く決めて、各団体が受け入れの準備に入れるようにできるかが課題。

今後の取り組み

8月4日（金）に2回目の説明会を実施予定